

池田家に相談の後、金比羅さまのご本体である不動王明と毘沙門天を当処に勧請されました。尊像の納められた厨子には池田章政公によって、天下泰平・万民豊稔の祈願文があざやかに記されています。

(現地解説板【金陵山西大寺】より)  
 ・香川県琴平町象頭山中腹にある金刀比羅宮(旧称金比羅大権現)にあったもの本尊が、西大寺観音院の牛玉所宮に祀ってあります。金比羅大権現の本尊は、明治時代の神仏分離の影響を受けて西大寺にもちこまれました。そして、長光上人が西大寺の住職であった明治15年(1882)から現在地に祀ってあります。金比羅は、日本では航海安全を守る神として、香川県の琴平に祀られ、その分社が全国各地につくられました。金牛御輿は、昭和28年(1953)の港まつりなどに連れ出され、平成元年(1989)修復され再度かつがれています。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

### 保存樹【クスノキ】

C-4

- ・幹 周 5.6m
- ・樹 高 23.5m
- ・推定樹齢 150年
- ・指定年月日 S63.3.1
- ・指定番号 第25号

(保存樹【庭園都市推進課】より)



### 保存樹【クロガネモチ】

C-4

- ・幹 周 2.0m
- ・樹 高 14.5m
- ・推定樹齢 100年
- ・指定年月日 S63.3.1
- ・指定番号 第26号

(保存樹【庭園都市推進課】より)



### 西大寺観音院

C-4

・西大寺は八世紀中頃の開基伝承をもつ高野山系真言宗の別格本山で、山号

を金陵山と称します。寺院の盛時には多くの塔頭を擁していましたが、現在は観音院だけとなっています。現存する堂塔は三重塔が17世紀の建立であり、他は19世紀代の建築です。観音院の寺宝などは各種の文化財に指定されています。

○国指定重要文化財「銅鐘」明治34年8月指定。総高108.3cm・口径65.2cmの大振の銅製梵鐘で、全体に多くの装飾文様が施されています。作風からみて、朝鮮の高麗時代初期の作と推定されています。

○県指定重要無形民俗文化財「西大寺会陽」昭和34年3月指定。旧正月14日(現在は2月の第3土曜日)の夜中に行われる修正会で深夜に本堂御福窓から投下される二対の宝木を禪の群衆が争奪することから「はだか祭り」とよばれています。

○県指定重要文化財「金陵山古本縁起」西大寺の創建や歴史を絵物語で親しみやすく描写しており、永世4年(1507)に作製されています。別に寛文元年(1661)の補巻も付いています。

○県指定重要文化財「三重塔」平成3年4月指定。延宝6年(1678)の建立。三間三重本瓦葺で、総高22.1m、棟高15.9mを計っています。

○市指定重要文化財「狩野永朝絵馬」昭和30年11月指定。本堂に掲げられた縦4.5m・横5.2mの巨大な絵馬で、明治10年の作です。構図は当時の「はだか祭り」の様相を的確に描写しており、女性の参加も認められています。

(現地解説板【岡山市教育委員会、平成7年3月】より)

・正式名称は、「金陵山西大寺」といい、高野山真言宗別格本山で、本尊として千手観音が安置されています。寺伝によれば、「777(宝亀8)年、安隆上人が寺を建てようと瀬戸内海を進んだとき、海中から竜神が現れ、上人に犀の角を授けた。上人はそれを埋め、その上に寺を建て「犀戴寺」と名をつけた。」とあり、これが「西大寺」の名の由来といわれています。毎年2月の第3土曜日の夜に、境内で行われる西大寺会陽(はだかまつり)は、日本の三大奇祭として有名となっています。西大寺会陽の翌日から約2週間隔に「会陽あまつり」が行われ、かつては「西大寺の町は会陽一日で一年間の収入をかせぐ」ほどのにぎわいであったといわれています。また、平成6年11月、「新西大寺八景」のひとつとして選ばれました。

(現地解説板【ふるさと西大寺のみちしるべ、岡山市】より)

・正式名称は「金陵山西大寺」といい、高野山真言宗別格本山で、本尊は千手観音です。毎年2月の第3土曜日の夜に、境内で行われる西大寺会陽(はだかまつり)は、日本三大奇祭として全国的に有名です。「創建」寺は一般に堂が建つ(開山)と同時に本尊が祀られています(開基)が、西大寺はこれが別々に成り立っています。即ち天平勝宝3年(751)周防国(山口県)の藤原皆足が千手観音を仏師(長谷観音の化身)に作らせ松中島観音寺に祀られせましたが、宝亀8年(777)安隆上人が西大寺の現地に堂を建て、翌年落成したときにこの千手観音をお祀りしました。

(現存加監)仁王門、三重塔(岡山県指定重要文化財)、石門、本堂、経蔵、大師堂、薬師堂、牛玉所宮などがあります。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)



てくてくロード

岡山市には、温暖な気候に育まれた自然が多く残り、吉備の国のもたらした古代の歴史的資源をはじめとする数々の歴史的、文化的遺産も多く、四季折々の風物も豊かです。しかし、車社会と呼ばれる今日では歩くことが少なくなり、これらの貴重な資源に触れる機会が減少し、歩くという健康的な活動から遠のいているといえます。このような状況を改善するため、岡山市では環境にやさしいまちづくりを進める一環として、ふるさと岡山市をゆっくり歩き、身近な自然とのふれあいの場を提供する遊歩道の展開へ向けて「岡山市遊歩道ネットワーク(てくてくロード)」を策定しました。

遊歩道ネットワークが広く市民に活用され、ふるさと意識の醸成、歴史文化財への理解、さらに健康づくりに貢献することを願っております。

### ルート内の主な公共施設

岡山県警察署……………TEL086-943-4110	西大寺ふれあいセンター……………TEL086-944-1800
西大寺駅前交通……………TEL086-942-2476	岡山市東区役所……………TEL086-944-5000
神崎駐在所……………TEL086-946-8449	神崎郵便局……………TEL086-946-8532
豊駐在所……………TEL086-942-3449	西大寺金岡郵便局……………TEL086-942-7771
水門駐在所……………TEL086-946-8326	西大寺中郵便局……………TEL086-943-2430
岡村一心堂病院……………TEL086-942-9900	西大寺郵便局……………TEL086-942-3800
岡山西大寺病院……………TEL086-943-2211	西大寺斎場町郵便局……………TEL086-942-3810
JR西大寺駅……………TEL086-942-3157	水門郵便局……………TEL086-946-8363
岡備/ス観光センター……………TEL086-943-3810	西大寺文化資料館……………TEL086-948-2568
岡備/ス……………TEL086-232-2116	岡山市東消防署……………TEL086-942-9119
岡山市立西大寺公民館……………TEL086-942-6252	

## 岡山市遊歩道ネットワーク《てくてくロード》

### 吉井川下流ルートマップ

第3版：2015年(平成27年)3月発行  
岡山市

お問い合わせ  
岡山市都市整備局道路計画課  
TEL086-803-1695(内線3646)



### 西大寺文化資料館

C-4

・昭和54年(1979)12月に開館された資料館は、館長の三浦叶氏が西

大寺の歴史を愛する愛郷心を育てようと、西大寺愛郷会を設立し、この地の文化財の保護、研究を推進するために活動しています。館内には観音院本堂の模型(1857年頃)や商家や庶民生活に使われた生活民具などが展示してあります。資料館は天満屋が文政12年(1829)に商舗を開いた屋敷内の蔵で運営されています。(岡山の資料館【河原馨著、岡山文庫発行】より)

・所在地は岡山市東区西大寺中一丁目16-17で、旧伊原木家の土蔵を利用して西大寺の歴史、文化などに関する資料を展示しています。昭和54年(1979)、天満屋創業150周年の記念事業として庭園をつくった時、西大寺愛郷会が無償で土蔵を借用し、同年12月9日に会館しました。(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)



### 西大寺普門院

C-3

・岡山市東区西大寺中一丁目(旧新町)にある真言宗の寺院で、本尊は虚空

蔵菩薩です。境内にある淡島大明神は女性を守る神で、夏祭り(7月12日)には参詣者でにぎわいます。明治44年(1911)に円満院と合併し、正式には普門坊円満院といえます。境内に松尾芭蕉の「さまざまのこと思ひ出すさくらかな」という句が刻まれた句碑が建てられています。(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)



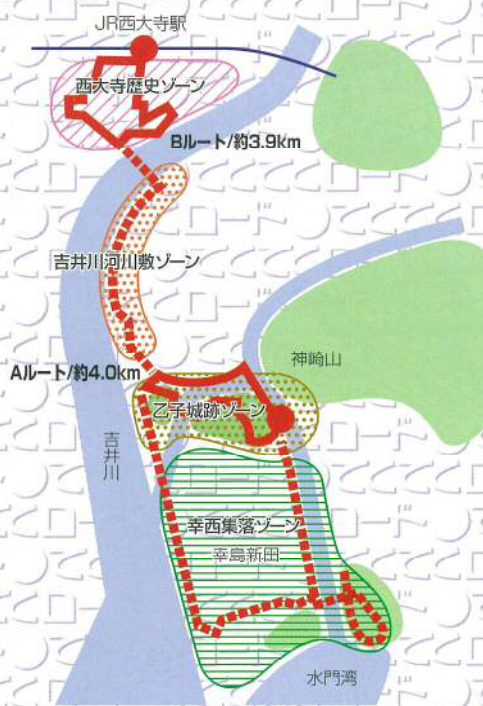
岡山市遊歩道ネットワーク てくてくロード

吉井川の広い下流部を歩く

# 吉井川下流ルート

総延長距離 19.0km

吉井川下流ルートは、西大寺観音院をはじめとする歴史・文化資源が多く存在する西大寺歴史ゾーン、吉井川左岸河川敷にひろがる雄大な自然景観を有する西大寺浜緑地の吉井川河川敷ゾーン、宇喜多商家築城の乙子城跡ゾーン、干拓、水運の歴史を伝える幸西集落ゾーンに大きく分かれています。おすすめのAルートは約4.0km、Bルートは約3.9kmです。



西大寺観音院をはじめとする西大寺の歴史資源

## 西大寺歴史ゾーン

広大な吉井川下流部河川敷

## 吉井川河川敷ゾーン

宇喜多商家築城の乙子城跡と新たに整備される神崎緑地

## 乙子城跡ゾーン

干拓の歴史と古いたたずまいの水門集落

## 幸西集落ゾーン

### 荒蹴宮

C-3

・岡山市東区西大寺南二丁目(旧今町)のお宮で、地元では「あらくまさま」と

呼ばれています。昭和初期頃まで少年会陽が行われていました。祭神は、本地將軍地藏菩薩、三宝荒神、天満自在天神で、いずれも悪をこらす強力な神です。もとは西大寺の一院であった円満院の鎮守でしたが、円満院が廃寺となったため、現在は普門院が管理しています。手洗鉢は、信仰していた人が、海難に遭い助かった記念に、八丈島の石を寄進したものだといわれています。(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)



### 雄神川神社

C-3

・岡山市東区西大寺南二丁目(旧渡場町)にある神社(もと郷社)で、西大

寺、雄神地区の代表者が請願して明治14年(1881)に建立したといえます。神社名の「雄神川」は、吉井川の古名をとったものです。現在は、地元町内会が祭祀を行っていて、地元では「神武様」と呼ばれています。祭神は神武天皇、孝明天皇、天照大神、豊受大神、彦火々出見命、少彦名命、大国主命です。西大寺は、吉井川の沿岸にあり、船運が盛んで商業が発達し、また土地が肥沃で地租が高かったため、明治の始めには、農業をやめて商売をしたり、他地方に出て行く者が多かったのですが、明治8年(1875)の地租改正により税額が減少したため、人々が安心して定着するようになり、その神恩に感謝して神社を建てたのがはじまりです。神社関係の神号などの品は、西大寺文化資料館に保管しています。(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)



## Bルート《JR西大寺駅》



## 乙子の常夜灯

H-4



高瀬舟の運航のため吉井川兩岸等に造られた常夜灯が点々と残存しています。高瀬舟のため造られ、川の上からあかりが見えたものですが、堤防の改修に伴い、現在はその役目を終えています。花崗岩で造られ、土台は四角形で石が積み上げられ、上部に灯火をつける窓があります。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

## 亀石神社

L-8



ここは、神武天皇の水先案内をした神が乗った大亀の化身(亀岩)を祭った

神社で、毎年旧暦6月15日には、ちょうちんを飾った美しいシャギリ船が湾内を巡回する古式豊かな満潮祭が供されます。

(現地解説板より)

岡山市東区水門町の海辺にある神社で、ご神体が亀の形をした岩であることから、亀石神社(亀石様)と呼ばれています。祭神は珍彦命(宇豆昆古命)と海童神の二柱です。例祭(亀岩まつり)は旧暦6月15日夕刻より行われます。海上にはシャギリ船が出るなど、満潮祭としてにぎわいます。「かめいわ」の表記は「亀石」と「亀岩」の二通りがあります。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

## 稲荷神社

K-8



稲荷神社の御祭神と由来

【御祭神】

倉稻魂命(五穀能成守

護神)、龍王(高倉神)、瓊瓊杵命

【由来】

当神社は元京都神楽岡斎場所より寛文7年(1667)巴郡土師郷木鍋山へ御勧請あらせられたものを宝永6年(1709)幸島新田氏神として御遷社せられたもので正徳2年(1712)御本社建立、明治13年(1880)社殿を改築される。

(現地解説板より)

幸島山の山上に登ると広い境内があり、北端の一段高くなった所に稲荷神社の社殿があります。その裏側にまわると巨石が重なり合い、幸島新田の広がり一望のもとにおさめられます。西側のながめもまたすばらしく、西大寺八景の一つに数えられています。幸島村史によると、貞享元年(1684)に幸島新田が開発されてから25年たったも、新田の村にはまだ信仰の中心となる氏宮がありませんでした。そこで、宝永6年(1709)大庄屋を筆頭に村役人が連書して藩へ氏神勧請を願いました。その秋、土師村寄宮から稲荷神社を南幸田の幸島山に遷宮しました。その日、のぼり土手は幟で埋められたといえます。御神事の式を角力に改め、近年まで大祭には、にぎやかに大ずもうが行われていたそうです。

(岡山市の歴史みであるき(岡山市史跡調査団編集、昭和52年3月)より)

岡山市東区水門町の宮山(東幸島山)にある神社(もと村社)で、祭神は、高倉神、倉稻魂神、瓊瓊杵命、他五柱です。貞享元年(1684)、幸島新田ができ、住民の入植が始まってから当分の間氏神はありませんでした。他社に参る難儀を憂える声が高くなり、宝永6年(1709)9月11日、五穀豊穡の神、平和の神、村民の氏神として巴郡土師村(現長船町)の木鍋山の稲荷神社から勧請しました。勧請当初は仮社殿であったが、正徳2年(1712)12月5日社殿を造営しました。現在の建物は、明治14年(1881)10月15日の改築で、大工棟梁は東幸崎村(現岡山市東区東幸崎)の田淵勝義と棟札にあります。宮山には、ソメイヨシノがあって、桜の花見時ににぎわい、また秋景色もよく旧西大寺市時代に選定された西大寺八景の一つに数えられています。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

## 幸島新田

I-6



岡藩藩主池田光政の意図により計画され、その子綱政の時代に、神崎新堀を水門湾まで延長し、その東西に開発された新田です。ほぼ幸島小学校区の範囲です。干拓計画の最初は明暦3年(1657)の頃からで、本格的に設計に取りかかったのは天和3年(1683)です。干拓工事は、天和4年(1684)2月1日着工、6月24日潮留(他説には天和4年(1684)正月11日に着工、3月11日潮留)と進み、同年中に完成しました。築堤総延長3.395間(約6km)、造成面積561町7反9畝11歩半(約557ha)でした。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

# Aルート《神崎バス停》

## 神崎樋門

H-7



道路と千町川と交差する神崎橋の南にある樋門です。その付近には、江戸時代の樋門石が立っています。ここから新田をつらぬいて一直線に南へ伸びる堤防道は、通称のぼり土手とも呼ばれています。

(岡山市のみであるき(岡山市遺跡調査団、昭和52年3月)一部抜粋)

## 神崎樋門石

(岡山市指定史跡)

H-7



千町川は、そのむかし、細いために大水のときは排水が悪く、千町平野に満水し、年々治水になやまされてきました。そこで寛永元年(1624)藩主池田忠雄の時に、乙子山を二つに切り開いて悪水抜ききの工事を始めました。のべ夫兵(家臣団の軍役であろう)3200人と鉄砲組830人の方で、翌年春に新堀が完成し、下手に木樋の水門がつくられました。また、この新堀の南方に広がる幸島新田は貞享元年(1684)に潮留が終わり、干拓後の貞享4年(1687)に石の樋門をつくり直しました。昭和38年に樋門の改修工事をしたとき、今の樋門の北10mぐらゐの水の中から江戸時代の樋門石が掘り出されました。貞享4年の銘のものが東側に、享保20年(1735)銘のものは西側に立てられています。

(岡山市の歴史みであるき(岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月)より)

岡山市東区神崎町地内の神崎橋南100mにある排水樋門の横に立ち、東西に1本ずつ、計2本あります。千町川の悪水抜きのために設けた樋門の石であり、江戸時代の治水の歴史をものがたるものでもあります。昭和38年(1963)3月の樋門改修工事の際、掘り出されました。この石材は、現在の樋門の上手約10mの水の中より発見されたもので、現在の樋の東側にある樋門石には貞享4年(1687)、西側にある樋門石には享保20年(1735)の銘が刻まれています。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

## 乙子城跡

G-4



宇喜多直家が天文13年(1544)に構えた梯郭式小型山城です。のちに備前国を平定し戦国大名に成長した直家が、城主として第一歩を踏みだした記念すべき城です。城は、本丸・二の丸を構え、腰曲輪、出曲輪が配されています。現在の乙子大明神境内は二の丸の場所、大手筋は現在の参道筋と判断されます。各郭は、ともに土段築成で、石垣は認められません。本丸の背後に土塁の一部が残っています。乙子城は、児島湾と巴久郡千町平野それに上道郡南東部を一望でき、臨海性の戦術拠点でした。宇喜多直家は天文12年(1543)浦上宗景の家臣となり、赤松晴政の軍と播磨で戦い殊勲をたて、この戦功と祖父能家の旧功によって、足輕30人と300貫の領地を与えられ乙子城主となりました。直家は、ここに5年間を城し、この地の治安維持と戦功を挙げました。その恩賞に岡山市東区竹原(上道郡奈良部)の新庄山城を与えられ、天文18年(1549)に移転しました。その後、乙子城は持城として、弟の浮田忠家を城主に置いていましたが、宇喜多直家が永禄2年(1559)に亀山城(岡山市東区沼)に移り、岡山市北区平野の平定が進むにつれその存在価値が薄らぎ廃城になったのでしょうか。

(現地解説板(岡山市教育委員会、平成6年3月)より)

神崎町を流れる千町川の西に高さ50mほどの木のおい茂った丸い小山が乙子城跡です。室町時代の末、乙子城が築かれたころは、今の乙子山は千町川の東の山と続いていました。乙子山の東北の山すそに五輪塔が一つあります。この墓は、南北朝、建武の中興のころの和田備後守頼長の墓であろうといわれていますがはっきりしません。乙子城へ登る道は、山の南東麓にある北村家の西に入って、乙子明神社の前を通り、墓地の細道を登り、頂上の本丸跡に出ます。頂上は約10haの平たい台地で、中央あたりに城の礎石らしい平らな石がのぞいています。あたりに松・カシ・クスギが茂って眺望はあまりよくありません。この城は、宇喜多直家が築きました。「備前軍記」によると、直家は幼名を八郎と言ひ、祖父能家の功によって、15才の時、天神山城主浦上宗景の家臣になりました。宗景が播州の赤松晴政と戦ったとき、初陣として手柄をたてたことなどによって、翌年の天文12年(1543)に元服して乙子のあたり300貫の地をもらいました。そのころ、児島郡は細川氏の領地、上道郡は松田氏に從ひ、その上海賊まで上陸して民家をおそい乱暴をしました。そこで、宗景は、乙子村に砦を築いてこれを防ごうと思ひ家臣にはかりました。しかし、行って守ろうという者はなく、直家だけが名乗り出ました。この時17才であったが、乙子城でめざましい活躍をしたので宗景は領地を3000貫にふやして、その功勞にむくいました。天文18年(1549)砥石城の浮田大和守を攻め滅ぼした賞として播磨の地をもらひ、奈良部城に移りました。そして乙子城は弟忠家にゆずりました。直家はここで勢力を得て、やがて岡山城主となったと言われています。

(岡山市の歴史みであるき(岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月)より)

岡山市東区乙子の乙子山(標高約48m)にある城跡である乙子城は、天神山(現和気郡佐伯町)の城主浦上宗景が、西方の守りを固めるため、乙子山に砦を築き、家臣であった宇喜多直家に足輕30人を付けて守させたのが始まりといひます。時は、1544(天文13)年、直家16才の頃であろうといひられています。直家はこの地で勢力を伸ばし、のちに岡山城主となる土台を築きました。新田干拓以前はこの付近は

海に臨む交通の要地であったため、この城は瀬戸内海から来襲する海賊から防御する目的で造られた海城でした。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

# Aルート《神崎バス停》

## 保存樹(クスノキ)

E-4



幹周 3.8m  
樹高 17.5m  
推定樹齢 200年  
指定年月日 S63.3.1  
指定番号 第30号

(保存樹(庭園都市推進課)より)

## 豊原角神社

C-5



岡山市東区西大寺浜にある神社(もと村社)で、同地区の氏神です。祭神は豊原角神、大己貴命、少彦名命である。備前国古社128社のひとつで式外の神社である。1985(昭和60)~1987(昭和62)年に行われた吉井川改修工事に伴い改築移転されました。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

# Bルート《JR西大寺駅》

## 溪雨資料館

A-4



岡山市東区西大寺二丁目8-31にあり、美術料紙、写経、古筆、書道用具

などを展示しています。美術料紙の種類別作品及び古筆の料紙の原色料紙を陳列し、その他天平から室町までの古写経、鎌倉から明治にいたるまでの書写されたもの、平安期の古筆原色模本約30点のほか、昔使用されていた硯、墨、水滴、硯箱、硯屏、印材、筆架などを陳列しています。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

## 山口五社宮

B-4



岡山市東区西大寺中三丁目(旧市場町)にあり、磯屋(山口氏)が周防から

当地に移り住む時、記るようになったと思われる。現在は地元町内会が管理しています。「上道郡誌」によると、素戔鳴尊、大名持命、少彦名命、倉稻魂命、大國主命を祀った五社があります。元清平寺があった場所で、通称権現地と呼ばれています。

(西大寺ふるさと再発見調査報告書「ふるさとからの伝言」より)

## 金比羅大権現

C-4



当処には、当山の鎮守牛玉所大権現と、もと讃岐の象頭山に安置されていた

金比羅さまのご本体です。不動王明と毘沙門天の二尊と合わせて祀りしております。日本古来の神と、中国から伝えられた仏とは元来同一のものだという説がおり、鎌倉時代には神仏習合の思想が確立しました。以来寺の境内に神社を建て、僧侶が神を祀るようになり、この思想習慣は江戸時代まで続きました。明治になると、「日本は神国であり、外国から渡来した宗教は廃止した方がよい。仏像や寺院は破壊すべきである。」という暴論により仏教は迫害されました。讃岐の金比羅さまは象頭山松尾寺金光院の鎮守としてお祀りされていましたが、時の住職はこのとき寺を神社に改め、僧侶をやめて神職として日本の海上安全の神である金比羅様を祀る事となりました。金比羅さまのご本体は仏像であったため破壊されそうになりましたが、松尾寺の末寺満福寺の住職有明師はこれを憂ひ、明治7年自分の故郷である当所津田村の角南助五郎宅に深夜ひそかに持ち帰り、二階に安置しました。もとの岡藩藩主池田章政公は、鹿藩置県によって東京に移り住んでおられましたが、この事を耳にされ、難を避けるため一旦自分の祈願寺に移されました。明治15年3月5日、当山の住職長光阿上人は